

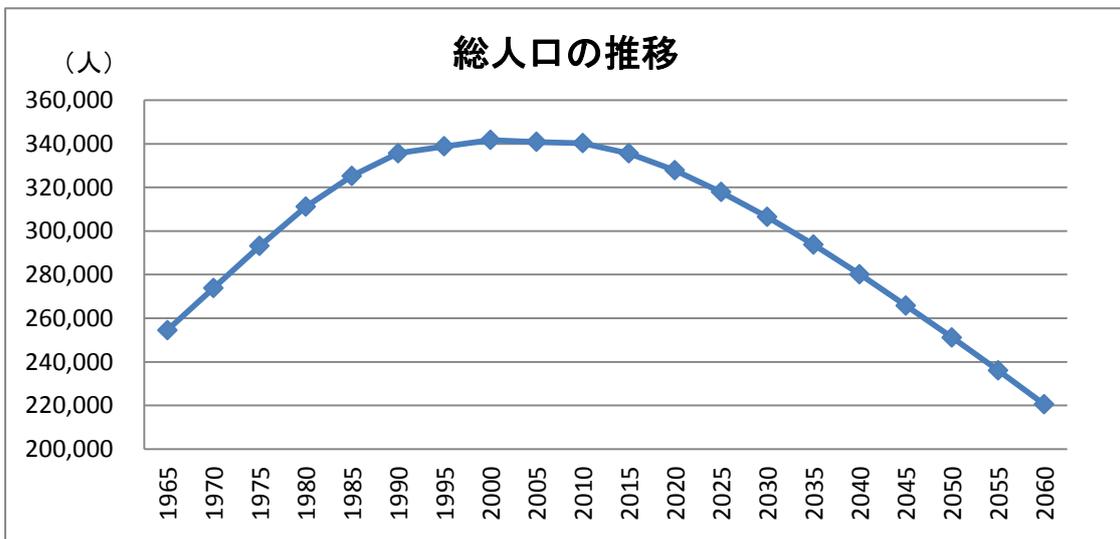
前橋版人口ビジョン 骨子案

人口動向分析

1 人口推移

(1) 総人口の推移

前橋市の総人口は、平成 22 年（2010 年）には、340,291 人となっているが、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計によると、今後人口減少が進んでいき、平成 52 年（2040 年）には 280,181 人、平成 72 年（2060 年）には 220,541 人となると推計されている。

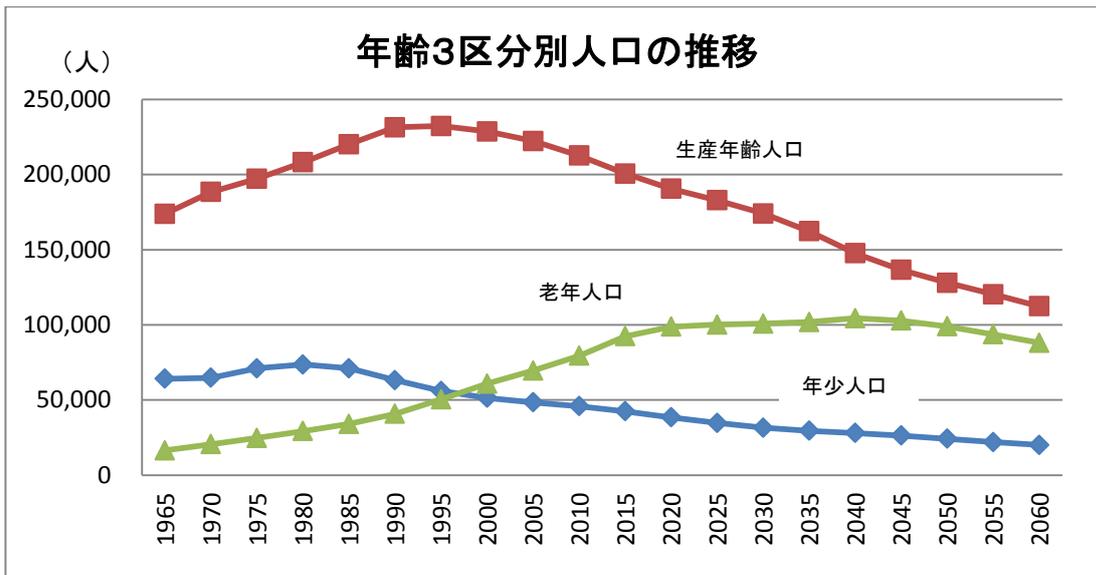


※出典：2010 年までは国勢調査、2015 年以降は社人研推計値

年	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010
人口	254,595	273,864	293,135	311,121	325,304	335,704	338,845	341,738	340,904	340,291
年	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
人口	335,580	327,856	317,899	306,475	293,801	280,181	265,842	251,228	236,089	220,541

(2) 年齢3区分別人口の推移

- ・生産年齢人口（15歳から64歳）は、平成7年（1995年）以降減少を続けており、将来的にも減少し続けることが見込まれる。
- ・年少人口（0歳から14歳）も、昭和55年（1980年）以降減少を続けており、平成12年（2000年）には老年人口を下回った。将来的にも減少し続けることが見込まれる。
- ・一方、老年人口（65歳以上）は一貫して増加し続けており、将来的にも平成52年（2040年）までは、増加し続けることが見込まれる。



※出典：2010年までは国勢調査、2015年以降は社人研推計値

年	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010
年少人口	64,178	64,851	71,073	73,606	71,026	63,236	56,025	51,459	48,479	45,875
生産年齢人口	173,934	188,431	197,277	208,163	220,177	231,459	232,307	228,742	222,344	212,620
老年人口	16,483	20,582	24,781	29,320	34,101	40,832	50,474	60,836	69,625	79,503
年	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
年少人口	42,542	38,472	34,776	31,527	29,530	28,070	26,361	24,264	22,027	20,054
生産年齢人口	200,635	190,581	182,897	174,116	162,356	147,657	136,633	127,969	120,358	112,364
老年人口	92,403	98,803	100,225	100,832	101,914	104,454	102,848	98,996	93,704	88,122

(3) 年齢3区分別人口の増減率分析

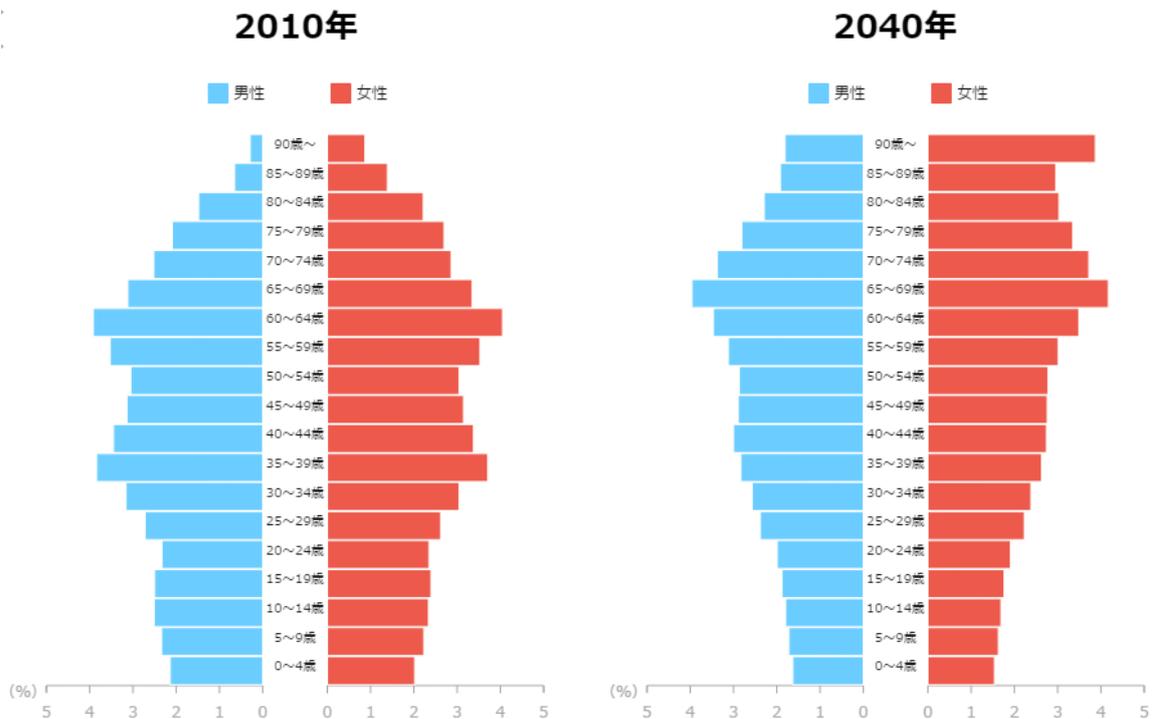
- ・総人口については、平成22年（2010年）から平成52年（2040年）にかけて、推計減少率が17.7%となっている。
- ・年齢3区分別に見ると、年少人口の推計減少率は38.8%、生産年齢人口の推計減少率は30.6%となっている。
- ・一方で、老年人口の推計増加率は31.4%となっている。

	平成22年 (2010年)	平成52年 (2040年)	推計増減率
総人口	340,291人	280,181人	▲17.7%
年少人口	45,875人	28,070人	▲38.8%
生産年齢人口	212,620人	147,657人	▲30.6%
老年人口	79,503人	104,454人	31.4%

※平成22年（2010年）の総人口には、年齢不詳の2,293人を含む。

(4) 人口ピラミッド

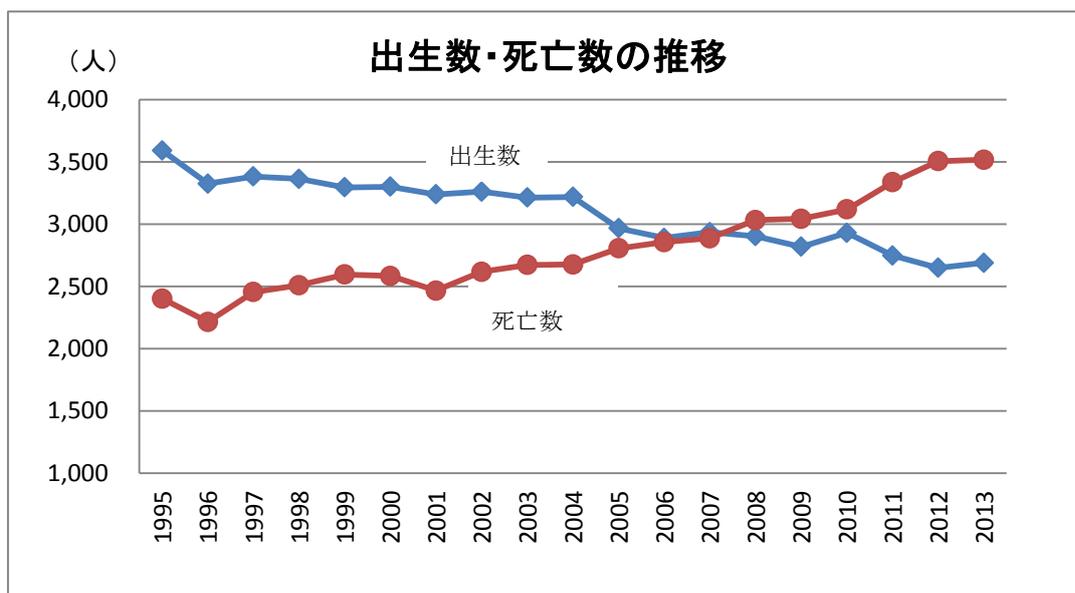
- ・平成22年（2010年）においては、男性女性ともに60歳～64歳の層が一番多く、次いで、35歳～39歳の層が多くなっている。
- ・平成52年（2040年）の推計においては、男性は65歳～69歳の層が一番多く、次いで60歳～64歳の層が多くなっている。一方、女性が一番多い層は65歳～69歳の層であるが、次いで多いのは90歳以上の層となっている。



2 人口動態

(1) 出生数及び死亡数の推移

- ・出生数については、平成 17 年（2005 年）に 3,000 人を下回って以降、2,600 人から 3,000 人の間を推移している。
- ・死亡数については、平成 20 年（2008 年）に 3,000 人を上回って以降、年々増加が続いている。
- ・自然増減数については、平成 19 年（2007 年）までは出生数が死亡数を上回り、自然増が続いていたが、平成 20 年（2008 年）以降、死亡数が出生数を上回り、自然減が続いている。



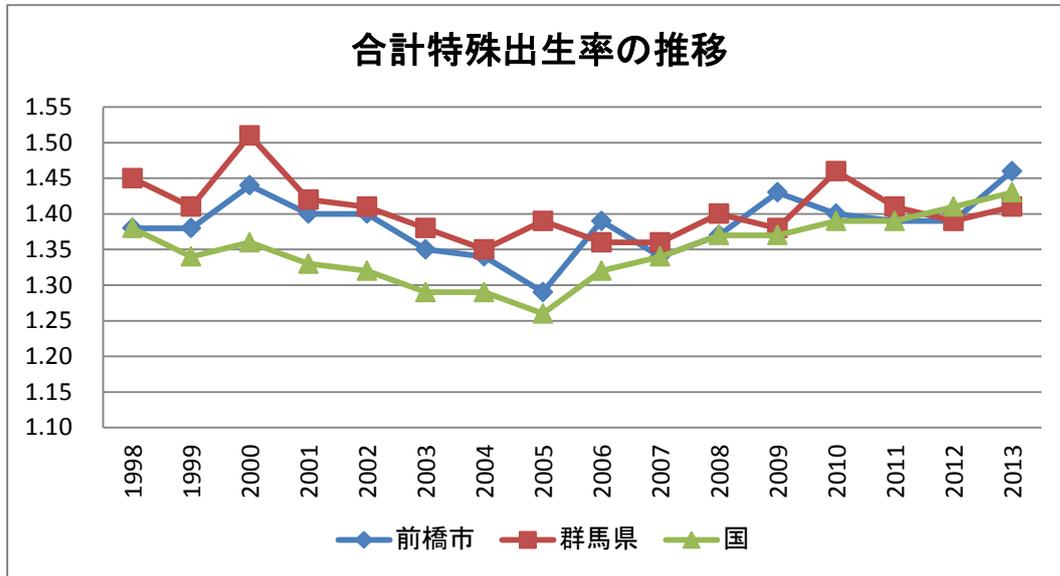
※出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査

年	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
出生数	3,593	3,326	3,383	3,364	3,296	3,301	3,240	3,261	3,214	3,219
死亡数	2,402	2,215	2,455	2,509	2,596	2,584	2,466	2,617	2,672	2,677
自然増減数	1,191	1,111	928	855	700	717	774	644	542	542

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
出生数	2,968	2,890	2,935	2,904	2,819	2,931	2,748	2,649	2,689
死亡数	2,806	2,856	2,887	3,033	3,043	3,119	3,337	3,506	3,518
自然増減数	162	34	48	-129	-224	-188	-589	-857	-829

(2) 合計特殊出生率の推移

・前橋市の合計特殊出生率は、平成 17 年（2005 年）には 1.29 まで下降したが、その後微増傾向であり、平成 25 年（2013 年）は 1.46 となっている。

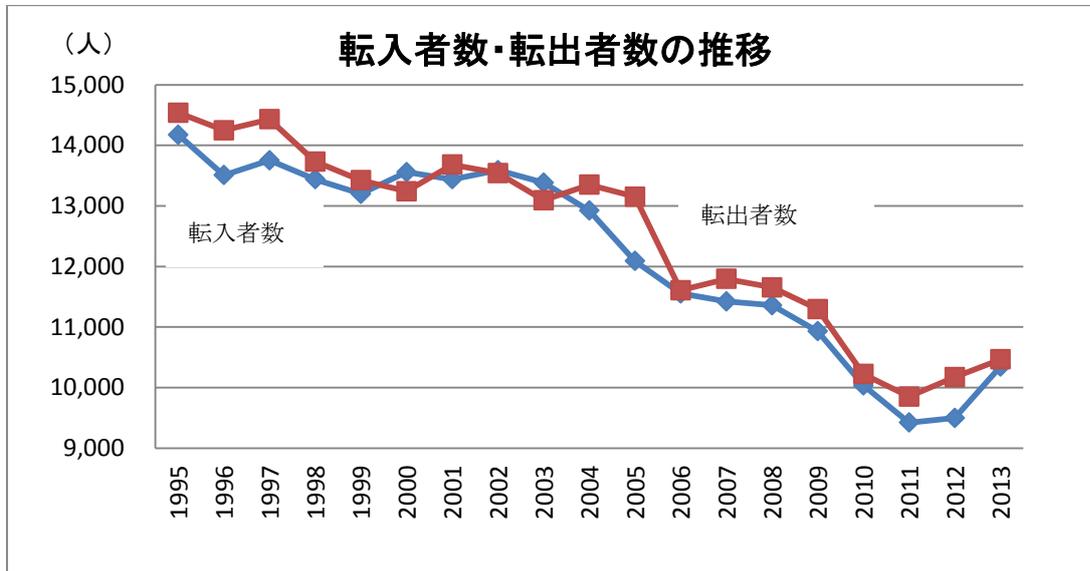


※出典：群馬県人口動態調査

年	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
前橋市	1.38	1.38	1.44	1.40	1.40	1.35	1.34	1.29
群馬県	1.45	1.41	1.51	1.42	1.41	1.38	1.35	1.39
国	1.38	1.34	1.36	1.33	1.32	1.29	1.29	1.26
年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
前橋市	1.39	1.34	1.37	1.43	1.40	1.39	1.39	1.46
群馬県	1.36	1.36	1.40	1.38	1.46	1.41	1.39	1.41
国	1.32	1.34	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43

(3) 転入者数及び転出者数の推移

・転入者数が転出者数を上回っている年もあるものの、転出者数が転入者数を上回る傾向が継続しており、社会減の状態が続いている。



※出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査

年	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
転入者数	14,175	13,508	13,753	13,440	13,199	13,557	13,439	13,591	13,385	12,924
転出者数	14,538	14,249	14,431	13,732	13,425	13,243	13,682	13,543	13,094	13,350
社会増減数	-363	-741	-678	-292	-226	314	-243	48	291	-426

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
転入者数	12,090	11,554	11,422	11,359	10,930	10,036	9,422	9,499	10,346
転出者数	13,151	11,607	11,795	11,655	11,296	10,223	9,852	10,172	10,466
社会増減数	-1,061	-53	-373	-296	-366	-187	-430	-673	-120

(4) 転入者数及び転出者数の内訳の分析

- ・群馬県外から前橋市への転入者数は、前橋市から群馬県外への転出者数を下回っている。中でも、東京都への転出超過数が最も多くなっている。
- ・また、群馬県内から前橋市への転入者数は、前橋市から群馬県内の転出者数を上回っている。市町村別に見ると、転出超過数が最も多いのは高崎市で、転入超過数が最も多いのは渋川市となっている。

	群馬県外							
	東京都	埼玉県	神奈川県	千葉県	栃木県	茨城県	その他	
転入者数	4,617	952	801	379	265	269	155	1,796
転出者数	5,016	1,211	946	504	308	269	184	1,594
社会増減数	-399	-259	-145	-125	-43	0	-29	202
	群馬県内							
	高崎市	伊勢崎市	渋川市	太田市	桐生市	吉岡町	その他	
転入者数	4,729	1,377	824	521	250	238	202	1,317
転出者数	4,490	1,641	849	298	261	195	218	1,028
社会増減数	239	-264	-25	223	-11	43	-16	289

※出典：住民基本台帳人口移動報告（平成25年）

(5) 自然増減及び社会増減の推移

- ・平成16年(2004年)までは、自然増が社会減を上回っており、人口が増加してきたが、平成17年(2005年)には自然増が社会減を下回る事となった。
- ・さらに、平成20年(2008年)以降は、自然増から自然減に転じたことにより、人口が減少する状況が続いている。



※出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査

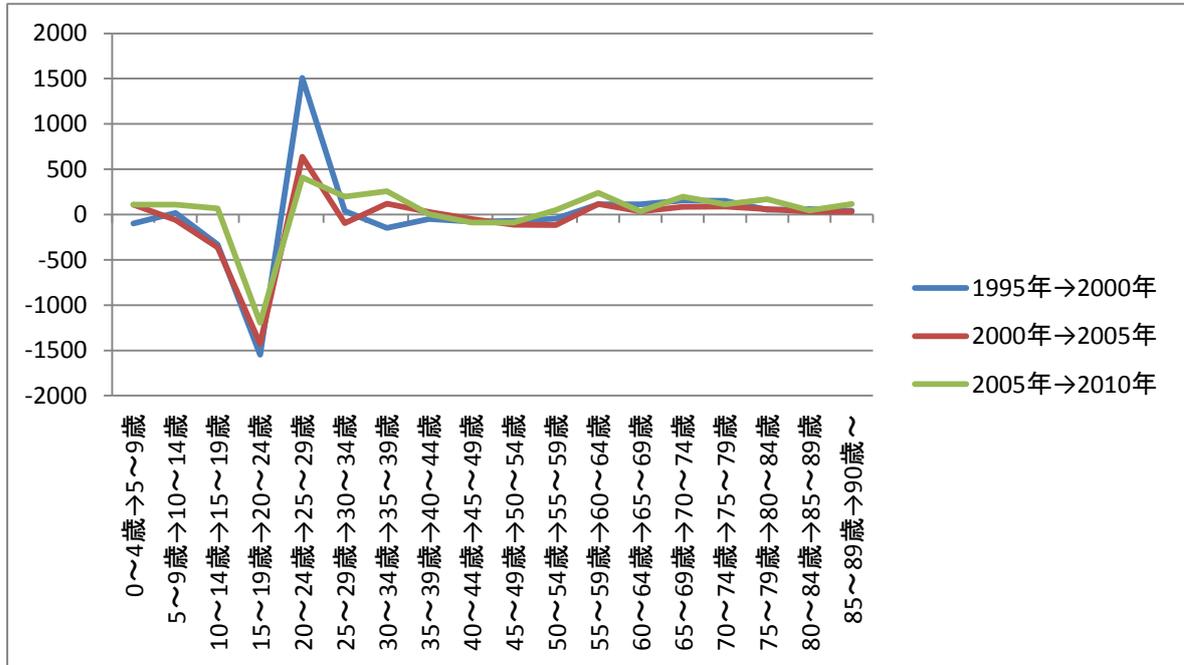
年	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
自然増減数	1,191	1,111	928	855	700	717	774	644	542	542
社会増減数	-363	-741	-678	-292	-226	314	-243	48	291	-426
合計	828	370	250	563	474	1,031	531	692	833	116

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
自然増減数	162	34	48	-129	-224	-188	-589	-857	-829
社会増減数	-1,061	-53	-373	-296	-366	-187	-430	-673	-120
合計	-899	-19	-325	-425	-590	-375	-1,019	-1,530	-949

(6) 年齢階級別人口移動の推移

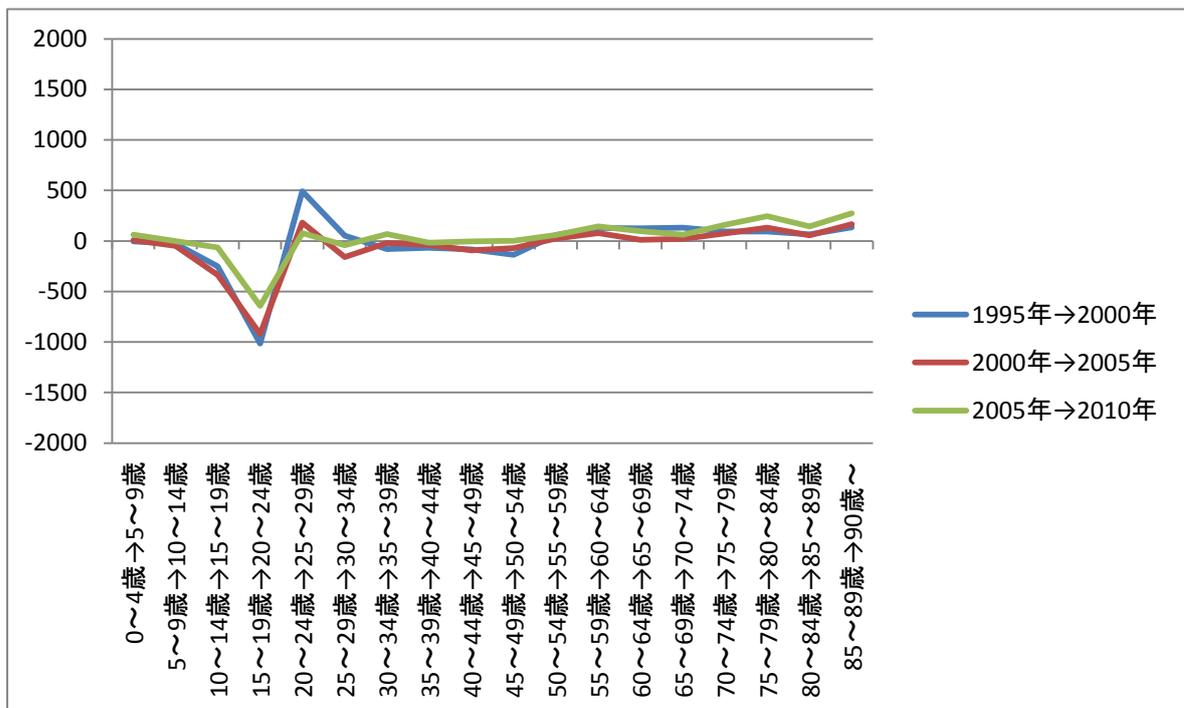
- ・男女ともに15歳～19歳から20歳～24歳が大幅な転出超過となっている。
- ・また、男女ともに20歳～24歳から25歳～29歳が転入超過の傾向が見られるが、転入超過の数については、年々減少している。

①年齢階級別人口移動の推移（男性）



※出典：国勢調査、住民基本台帳人口移動報告

②年齢階級別人口移動の推移（女性）



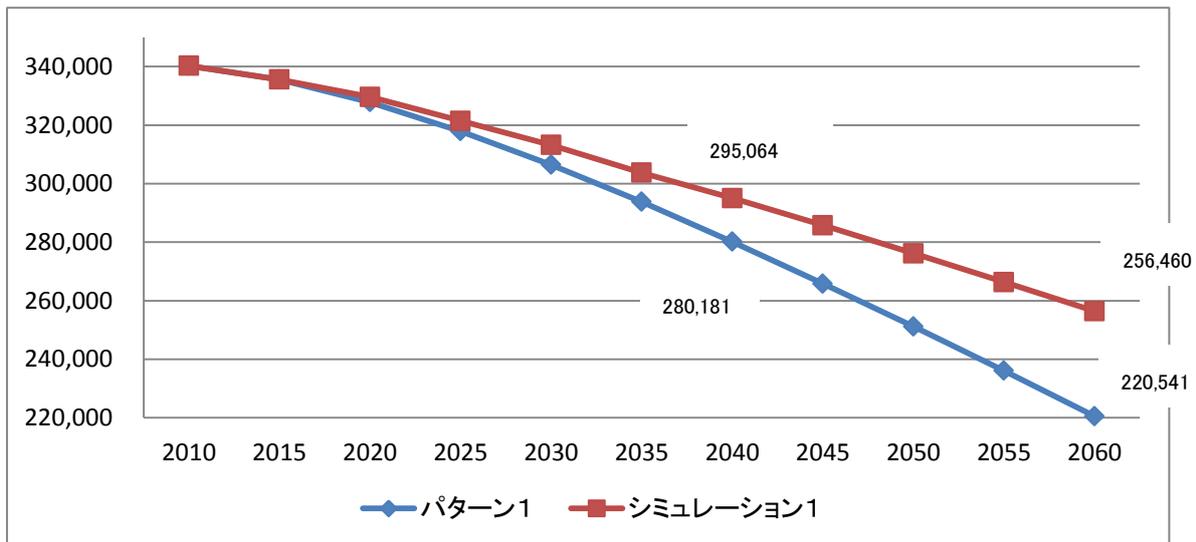
※出典：国勢調査、住民基本台帳人口移動報告

将来展望

1 将来人口推計と分析

(1) 総人口の推計及び分析

- ・平成 52 年（2040 年）の総人口を見ると、シミュレーション 1 では 295,064 人となっており、パターン 1 と比較すると、14,883 人多くなっている。
- ・また、平成 72 年（2060 年）の総人口を見ると、シミュレーション 1 では 256,460 人となっており、パターン 1 と比較すると、35,919 人多くなっている。



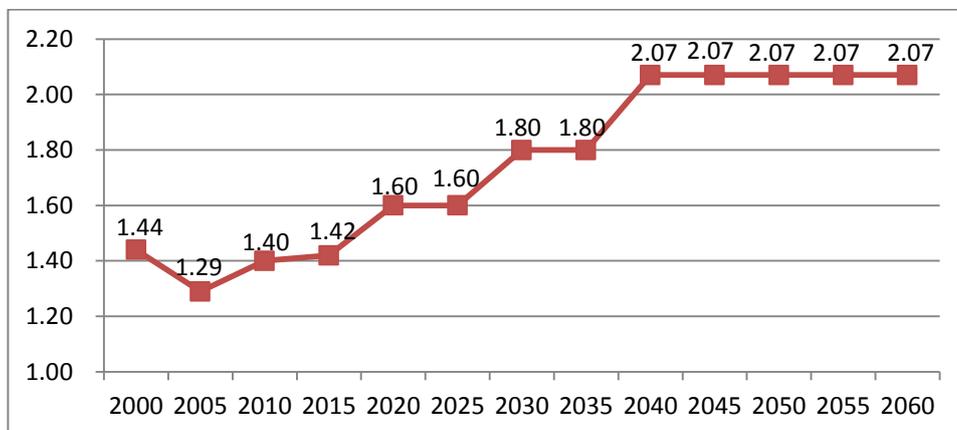
※推計方法の概要

①パターン 1

国立社会保障・人口問題研究所の推計値（2060年に国の総人口が約8,700万人まで減少すると仮定した場合の本市の推計）

②シミュレーション 1

パターン 1 において、合計特殊出生率を国の長期ビジョンにおける目標に基づき、平成 32 年（2020 年）に 1.60、平成 42 年（2030 年）に 1.80、平成 52 年（2040 年）に 2.07 と仮定した場合の推計値



(2) 人口構造の分析

- ・年齢3区分ごとにみると、パターン1と比較して、「0～14歳人口」及び「15～64歳人口」の減少率は、シミュレーション1において、小さくなる。
- ・一方、「65歳以上人口」は、パターン1とシミュレーション1の間でそれほど大きな差はみられない。
- ・また、パターン1と比較して、「20～39歳女性人口」の減少率についても、シミュレーション1において、小さくなる。

		総人口	0-14歳人口	うち0-4歳人口	15-64歳人口	65歳以上人口	20-39歳女性人口
2010年	現状値	340,292	45,903	14,065	214,219	80,170	39,909
2040年	パターン1	280,181	28,070	8,881	147,657	104,454	25,653
	シミュレーション1	295,064	39,475	13,948	151,136	104,454	26,484

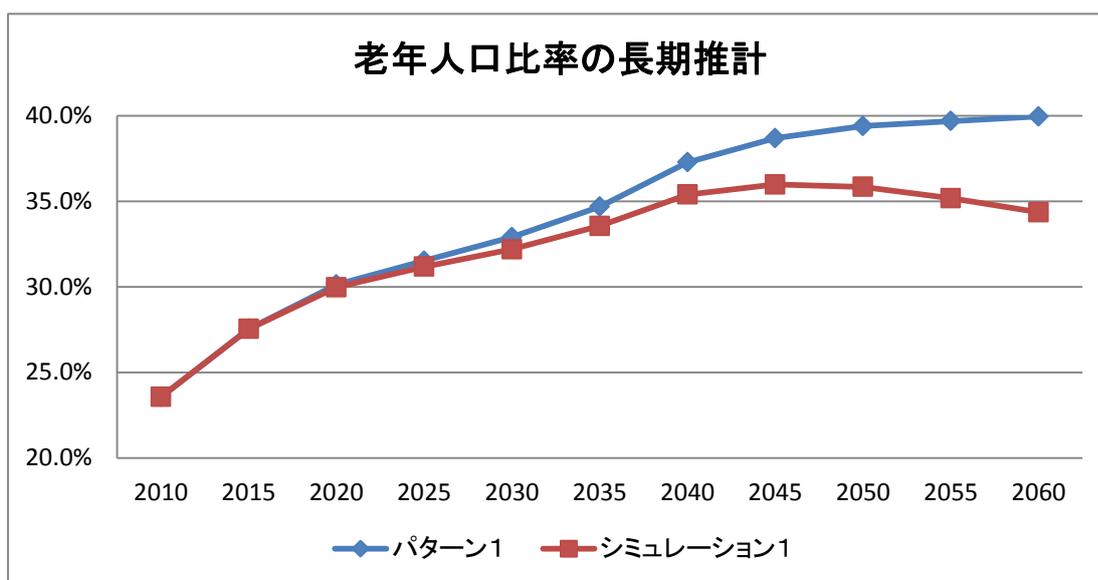
		総人口	0-14歳人口	うち0-4歳人口	15-64歳人口	65歳以上人口	20-39歳女性人口
2010年 →2040年 増減率	パターン1	-17.7%	-38.8%	-36.9%	-31.1%	30.3%	-35.7%
	シミュレーション1	-13.3%	-14.0%	-0.8%	-29.4%	30.3%	-33.6%

※前橋市の平成22年（2010年）の国勢調査の総人口は340,291人ですが、同年の社人研の総人口は340,292人となっています。これは年齢不詳人口を按分した数字が加算されたものであるためです。

(3) 老年人口比率の変化（長期推計）

- ・パターン1においては、平成72年（2060年）まで老年人口比率は上昇を続ける。
- ・一方、シミュレーション1においては、人口構造の高齢化抑止効果が平成57年（2045年）頃に現れ始め、36.0%でピークを迎え、その後低下する。

年		2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
パターン1	総人口	340,292	335,580	327,856	317,899	306,475	293,801	280,181	265,842	251,228	236,089	220,541
	年少人口比率	13.5%	12.7%	11.7%	10.9%	10.3%	10.1%	10.0%	9.9%	9.7%	9.3%	9.1%
	生産年齢人口比率	63.0%	59.8%	58.1%	57.5%	56.8%	55.3%	52.7%	51.4%	50.9%	51.0%	50.9%
	65歳以上人口比率	23.6%	27.5%	30.1%	31.5%	32.9%	34.7%	37.3%	38.7%	39.4%	39.7%	40.0%
	75歳以上人口比率	11.7%	13.6%	15.8%	18.8%	20.7%	21.3%	22.0%	23.4%	25.8%	26.9%	27.0%
シミュレーション1	総人口	340,292	335,597	329,630	321,475	313,197	303,708	295,064	285,778	276,174	266,342	256,460
	年少人口比率	13.5%	12.7%	12.2%	11.9%	12.2%	12.4%	13.4%	13.9%	14.3%	14.1%	14.2%
	生産年齢人口比率	63.0%	59.8%	57.8%	56.9%	55.6%	54.0%	51.2%	50.1%	49.9%	50.7%	51.5%
	65歳以上人口比率	23.6%	27.5%	30.0%	31.2%	32.2%	33.6%	35.4%	36.0%	35.8%	35.2%	34.4%
	75歳以上人口比率	11.7%	13.6%	15.7%	18.6%	20.2%	20.6%	20.9%	21.8%	23.4%	23.8%	23.2%



【今後の検討】

